

## 令和元年度 指定管理施設運営状況中間評価表

### 1. 施設の概要

施設の名称	むつ市菅宮後、名子、永下、金谷沢牧野及び宮後ふれあい牧場		
指定管理者	団体名	田名部畜産農業協同組合	
	代表者	代表理事組合長 千葉 亮	
	所在地	むつ市大字田名部字下川18番地	
指定期間	平成31年4月1日～令和4年3月31日（3年間）		
指定管理業務の概要	市内農家の所有する家畜の預託。種雄牛・種雌牛の飼養管理。 宮後ふれあい農園の管理。		

### 2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。自主事業分は含まないこと。

※原則として他会計からの繰入金及び他会計への繰出金は含まないこと。

※人件費には、経常の指定管理業務にかかる人件費のみを記載し、臨時的な日雇い雇用などの賃金を含まないこと。

単位：千円

区 分	計 画 額 ①	実 績 額 ②	増 減 (②-①)
収入合計 (A)	41,283	27,648	△13,635
うち利用料金額	13,257	7,648	△5,609
うち指定管理料	28,026	20,000	△8,026
支出合計 (B)	41,283	21,710	△19,573
うち人件費	18,530	7,039	△11,491
収支差 (A-B)	0	5,938	5,938
市への納入金	0	0	0
計画額と比較した実績額の増減理由			

### 3. 施設利用の状況

単位：頭

利用者数	区 分	計 画 ①	実 績 ②	増 減 (②-①)
	放牧述べ頭数	51,725	31,507	△20,218
利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施 (有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> )				

### 4. 自主事業の実施状況

単位：人、千円

事業名	利用者数	収 入	支 出
※自主事業は実施していない			

5. 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価（A：優良 B：適正 C：要改善）

評価項目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	B	B
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	B	B
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	B	B
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	B	B
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	B	B
②潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	B	B
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	-	-
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
①施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	B	B
②収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	B	B
③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	B	B
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
①施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	B	C
②設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	B	B
③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	B	B
④利用料金の収受及び施設管理経費の支出は適正であったか。	B	B
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	B	B
②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	B	B
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	B	B
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	B	B

6. 指定管理者総合評価 ㊤自己評価をCとした項目についての改善策も記載すること。

殆どについては、適正に行った。  
 看視人採用計画をたて、ハローワークに求人を依頼したが希望者がいない状況が続いている。  
 人員不足により、本年度は自主事業の計画は立てていない。

7. 市の所管課総合評価 ㊤市の評価をCとした項目についての指導内容も記載すること。

経年劣化等により牧草地が荒れ、放牧牛の管理が難しい状態ではあるが、目立った事故もなく管理できていることは評価できる。  
 人員不足については、繁忙期には農畜産業経験者を期間雇用する等で対応しているのは把握しているが、今後も人員不足を補うため、看視人の募集は続けてほしい。  
 牧野作業員という性質上、牛と接することに抵抗がない、またはトラクター関係の操作ができる人という少し特殊な適正が求められるため、一般の人が応募しにくい現状は理解している。  
 市の方でも、農畜産業経験者やそれに類する人の情報を集め、指定管理者と情報共有しながら、新たな牧野作業員の確保に努めたい。